

第21回 ITS世界会議 デトロイト2014



第21回 ITS世界会議デトロイト2014



会場全景

第21回 ITS世界会議デトロイト2014

開催期間:9月7日(日)~9月11日(木)

会場:米国 デトロイト

会議テーマ:「Reinventing Transportation in our Connected World」
「つながる世界で、あらたな交通の創世へ」

参加国数:未発表(昨年60ヶ国、一昨年91ヶ国)

目標参加者数:10,000人

会議登録者数:未発表(昨年約3700人)

出展企業・団体数:222(日本、238、ウィーン345)

日本の出展:29団体(日本116、ウィーン24)

セッション数:216(日本、219、ウィーン224、オランダ231、釜山223)

過去のITS世界会議参加動向

	2005 サンフランシスコ	2006 ロンドン	2007 北京	2008 ニューヨーク	2009 ストックホルム	2010 釜山	2011 オーランド	2012 ウィーン	2013 東京	2014 デトロイト
参加国数	55ヶ国	75ヶ国	52ヶ国	66ヶ国	64ヶ国	84ヶ国	59ヶ国	91ヶ国	60ヶ国	
会議 登録者数	2,560人	3,067人	2,300人	3,298人	2,801人	4,317人	} 6,510 人	10,000人	3,700人	
展示会 来場者数	7,130人	7,262人	約40,000人	5,501人	8,512人	38,700人			10,000人	
出展数	163団体	243団体	163団体	250団体	254団体	213団体	236団体	345団体	238団体	222団体

(2011年オーランドは、参加国数や参加者数は正確にカウントしていないため、かなり大雑把な数値)

第21回 ITS世界会議デトロイト2014 オープニング

デトロイト世界会議組織委員長
(HTNB社 副社長)



ミシガン経済開発公社(MEDC) CEO



GM CEO



開会挨拶

セレモニー



第21回 ITS世界会議デトロイト2014 展示会場



展示会場テープカット

第21回 ITS世界会議デトロイト2014 日本ブース



日本ブース オープニング



日本ブース全景



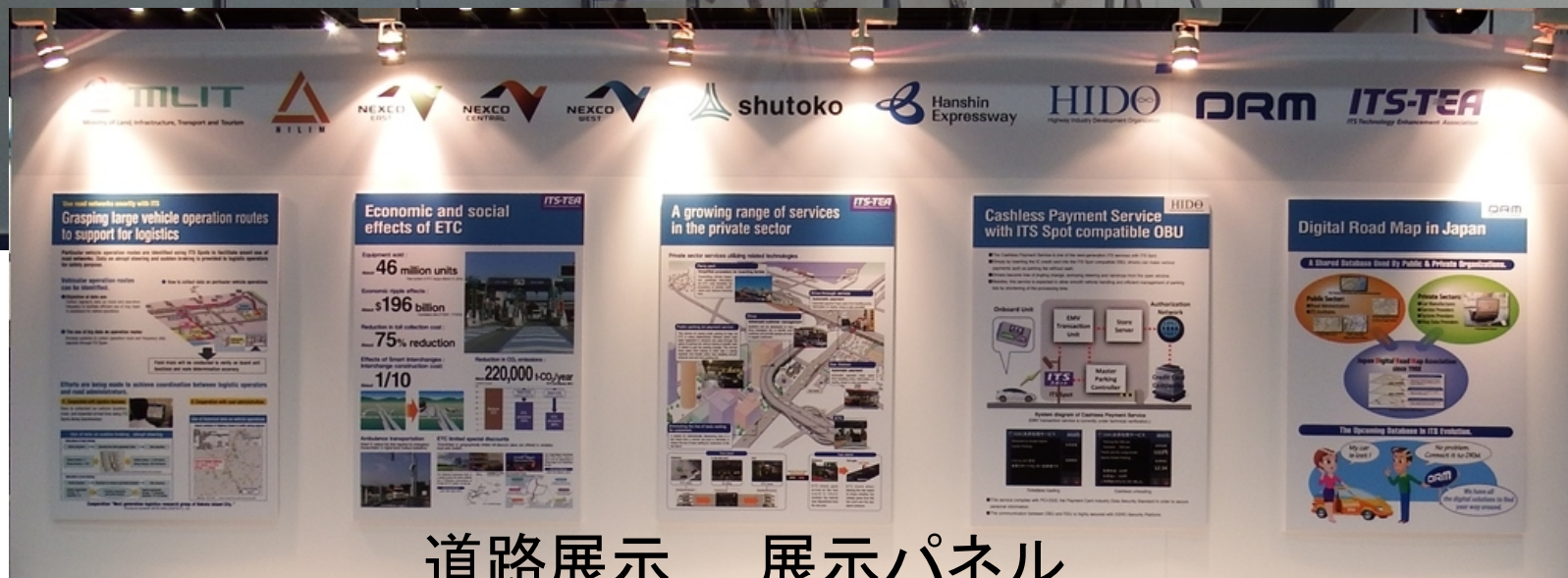
- ・ブース
仕切りを少なくした開放感のあるブース
- ・日本ブースの出展者
内閣府、国交省(道路局)、総務省、東京都
VICS、U協、壁に見えてしまったため、
富士通、三菱電機、NEC、住友電工、東芝

第21回 ITS世界会議デトロイト2014 道路展示(日本ブース内)



道路展示 全景

第21回 ITS世界会議デトロイト2014 道路展示(日本ブース内)



道路展示 展示パネル

第21回 ITS世界会議デトロイト2014 道路展示(日本ブース内)



高速道路会社 展示パネル

第21回 ITS世界会議デトロイト2014 展示

外国



GM



シーメンス



シンガポール

日本企業



トヨタ



ホンダ



アイシン

・展示全体

展示の規模は昨年の東京の半分以下の規模くらい 一番大きいブースは日本ブース
日本企業の展示ではシミュレーターを設置、外国企業は展示と言うより商談スペース

セッション概要

今年のITS世界会議のセッション

注目は、コネクテッドビークル(26)

ビッグデータ(16)、自動運転(14)

自動運転、ビッグデータのセッションは、ほぼ満席の大盛況

コネクテッドビークルのセッションは、閑散と盛況のセッションの差が激しい

セッション風景

コネクテッドビークルのセッション



自動運転のセッション



コネクテッドビークルのセッション



ショーケース概要

今年のITS世界会議のショーケース
注目は、自動運転とコネクテッドビークル
実際の道路を走行する自動運転の体験は、
希望者が多く、予約を取ることが難しい状況
車車間通信(V2V)を利用した自動運転
センサーを利用した自動車庫入れ
路車間通信を利用した注意喚起情報提供
(欧州向け情報と米国向け情報)



第21回ITS世界会議デトロイト2014 クロージングセレモニー



パッシング・ザ・グローブセレモニー
デトロイトからボルドーへ



ボルドー大会の紹介

今後のITS世界会議予定

- 2015年 10月5日～9日 ボルドー
- 2016年 10月10日～14日 メルボルン
- 2017年 10月29日～11月2日 モントリオール
- 2018年 コペンハーゲン(予定)

今年のITS世界会議の特徴

セッション

- コネクテッドビークルが26セッション、ビッグデータが16、自動運転が14
- 米国でコネクテッドビークルに力を入れていることが分かる。
- 参加者は例年になく少ない感じ
- 自動運転のセッションは立ち見が出るほどの盛況

展示の特徴

- 展示の規模は、去年の東京の半分以下くらい
- ITSシンガポール、ITS台湾が2019年開催に向けて活動
- 米国企業は、GMが目立っていたが、それ以外の企業は小規模の展示ブース
- 一番広いブースは“日本ブース”

ショーケース

- 自動運転とコネクテッドビークル(V2V、V2X)のデモが注目
- 30のショーケースの内、自動運転は9、V2VとV2Xは8

今年のITS世界会議の特徴

その他

●自動運転

メーカーから道路管理者や道路関係者への要望

- ・自動車単独のシステムとして、センサーやGPSを利用して自動運転を可能にすることは出来た。

前方情報、正確な位置などインフラ設備（道路側）からの情報があればもっと正確、確実な自動運転が可能となるので、道路側と協力して自動運転の技術を高めたいとの意見があった。



会場近くの廃墟ビル



土曜日の夕方の繁華街



平日の朝の渋滞



繁華街から少し離れると人がいない